

美術センター 久我記念館

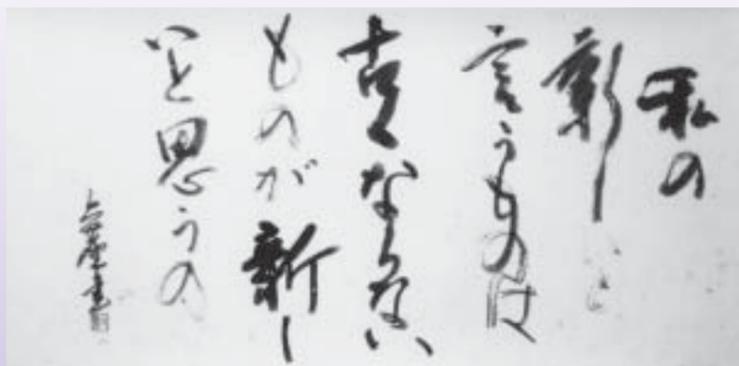
企画展のご案内
月曜休館・入館無料

第5回 六塵会書展 伴書道教室作品展

4月4日(土)～19日(日)(最終日は16時まで)

六塵会(須恵町在住 伴信行主宰)の書展もお陰をもちまして5回目を迎えます。今回は新緑の芽吹きに包まれる好時節、久我記念館におきまして小学生から80歳代まで40名余の作品約80点を展示します。書に親しんでいる期間も目標も一人ひとり違いますが、各々に選んだ好きなことばや春にちなんだ詩などを作品にしました。

多くの方々にお出でいただき、ともに春の息吹を感じていただければ幸いです。



伴信行 作品

2009(平成21)年度 久我記念館年間案内

※個展開催が決定しているものを記載しています。
会期については変更となる場合があります。

会期	企画展示・内容	ジャンル
4/4～4/19	第5回 六塵会書展	書
4/26～5/10	一ノ宮 佳邦展	油彩画
5/16～5/31	久原教室水彩画3人展	水彩画
6/6～6/21	杜の景 前原ヨシノブ展	彫刻
6/27～7/12	豊遊会書作展	書
7/18～8/2	夏のコレクション展	收藏品展
8/29～9/13	大鶴 美智子展	絵画
10/10～10/25	第15回須恵美術クラブ展	絵画・書・工芸・写真
10/31～11/15	川口 美千子展	工芸
11/21～12/6	赤・青・黄 色鉛筆画教室展	色鉛筆画
12/12～12/27	池田 大受展	油彩画
1/9～1/24	冬のコレクション展	收藏品展
1/30～2/14	郷土を描く展	油彩画・水彩画・版画
3/13～3/28	小学校児童画展	水彩画
調整中	須恵中学校・須恵東中学校美術部展	油彩画・水彩画



ワークショップ「アートに触れる夏」20年8月開催



「布の絵本展」20年9月開催



木下さん

五年くらいになるでしょうか、近所で子どもたちの大きな遊び声が聞こえてくるようになりました。私にすれば、少し年上の孫のような子どもたちで、何となくこちら元気をもらったような気がします。それでも、四十世帯ほどの隣組合の中で、小学生がいる家庭は五世帯程度です。現代社会は核家族化し、子どもたちを取り巻く環境も、私たちが育ったころや子どもを育てたころとは、随分変わってきたよう

な気がします。経済の発展とともに、品物は豊富にあり、お金さえ出せば大抵の物は手に入るし、他人と関わらなくても生きていけるようになりました。でも、私は、何か大切なものが忘れられかけているような気がします。

「子は国の宝」といいます。少子化が進む今日、学校や地域で子どもたちを見守っていくようになりました。三つの校区単位では、コミュニティ活動の一環として安全対策に取り組み、登下校の時間帯には交通安全や防犯の活動が行われています。学校教育の中では、地域の人たちが経験を積んだ専門の知識で子どもたちを教えています。そのような活動を通して、世代の違う人たちとの交流が近所同士から広がっていききました。それは、子どもたちの社会性をも育ててくれることではないでしょうか。

今、子どもの大きな社会問題として、携帯電話やインターネットのことが議論を呼んでいます。現代のように、共働きが増え塾通いや行動範囲が増した子どもたちにとっても親にとっても、大変便利なものだと思います。しかし、

使用方を誤れば大事な子どもの心をむしばんでしまうかもしれません。子どもたちに正しい使い方を教え、導いていくのは、親はもちろんのこと、私たち大人の役目でもあるのです。文字や画面だけの触れ合いや感覚は、人が本来持っている優しさや温かさまでも忘れさせかねない気がします。

昨年の秋、隣近所の有志のみなさんとで親睦の一泊温泉旅行をしました。七十歳代から四十歳代までの参加者でした。残念ながら、子どもたちの参加はなかったものの、次回はぜひ一緒に行ければと思っています。それにしても、裸の付き合いは終始和やかムードで本当に楽しい思い出となりました。

個人情報保護され、プライバシーが重要視される時代になりました。もちろんそれは大切なことです。が今、私たちはもつと身近な人々と交流を深め、お互いを知り合い、楽しんでみてはどうでしょうか。

楽しみを通して培った友情は、苦しい時も希望やエネルギーを与えてくれるものと信じます。

「絆」愛する地域との絆

有識者 木下 英美さん



町民運動会も地域交流のひとつ

テレビなどで、地震や災害で被害に遭った人たちが被災地の報道をよく目にします。人々が不安ながらも他人を気づかい、助け合っている様子が伺えます。また、それを援助する人たちの優しさも見とれます。私たちにも、異常気象などでこうした災害や予期せぬ出来事が起きないとは限りません。そんな時にも、日ごろからの地域での親交が深ければ、どれほど心強いでしょう。地域の行事などに積極的に参加し、多くの人たちと親交を深め、たくさんの方々の絆を育み、自分たちの手で自分たちの、より住みやすい地域社会を築こうではありませんか。